

共に生きる

～保護司とアルコール問題を抱えた保護観察対象者～

保護司（社会福祉士） 橋本久美子

私は保護司をしながらソーシャルワーカーとして働いています。

ある日の面接での保護対象者の言葉が忘れられません。

「酒を好きなだけ飲んで死ねれば本望だよ。。。先生」

彼は 60 代、飲酒による暴力事件を繰り返し起こして、家族も仕事も友人も失いました。

私は彼の顔を正面からみました。

彼のひとなつっこい視線が私に向けられていました。

「酒を好きなだけ飲んでしねれば本望だよ」彼のくちからもう一度同じ言葉がこぼれます。

「ねえ、AA って知ってる？ AA に一緒に行かない？ オープンミーティングってとこだったら私も一緒にいけるのよ」

私の口が開きました。

オープンミーティングとは各地区で常時開催されている AA ミーティングのひとつで誰でも参加できるミーティングです。AA のプログラムがどのようなものなのか体験することができて、保護観察対象者の人は勿論そのご家族も参加する事ができます。

「酒を好きなだけ飲んでしねれば本望だよ」こんな言葉を聞いたら、20 年前の私だったら、何も言葉が出なかったと思います。

なぜならば、20 年前の私は AA を知らなかったからです。

私が AA を知ったのは 20 年と少し前です。

AA は、飲まない生き方を得て飲酒の問題から回復しようとするセルフヘルプグループ、自助の為の集団です。

AA はボランティアな集団ですがアルコールをやめる事＝やめ続ける事＝飲まない生き方を手に入れる事＝回復する事、その為のお手伝いをする為には欠かす事のできない存在なのです。

初めて AA の中で時間を過ごしたのはオープンスピーカーズミーティングでした。そこではじめて AA メンバーの回復の体験や発言をきき「回復」という「生き方が変わる」実際を知りました。

それから 20 年余り、私は AA へ沢山の人と一緒に足を運びました。

AA からの帰り道考える事があります。

人はなぜ繰り返し酔いを求めるのかしら？そしてなぜその状態

からの脱出が必要なのかしら？と。

アルコール依存症の方をアルコホリズムと呼びます。

アルコール依存症など飲酒の問題で健康面や生活面に障害をきたしている事を総称してアルコホリズムと言いますが、事があります。アルコホリズムはという現象は生物学的現象であるので病院で治療をしないと進行します。また、心理学的現象なので、なんで、飲まないと居られないのかカウンセリング等で話をして、考えてもらう事も有効です。

同時に「社会の中で発生し」、「社会の中で回復する」病気でもあります。

「社会の中で回復する」そのときに AA が必要になります。

～AA とは、そして AA の効果～

AA には回復のプログラムというわかりやすい道具があります。

「12ステップのプログラム」です。

第一ステップが印象的です。「私たちはアルコールに対して無力である」とあります。

無力とは闘わない事、闘いをあきらめる事を意味していて「アルコールをやめられない？意志が弱いんだ。」といったアルコールとの果てしなく続くむなしい闘いから「降りる事」からはじめましょうということでしょうし、自分でアルコールをコントロールできなくなったという「わかっているのにやめられない」という「コントロール喪失」を受け入れる事を言い表しているのでしょう。

社会の中で回復する為の AA の存在という様に AA には「集い・集う事」という意味もあります。

アルコールで繰り返し問題を起こしていると、家族を失い、仕事を失い、友人を失い、人との繋がりを失います。

依存症＝アディクションはコネクションを失った病気とも言えます。

私の保護観察対象者の彼がそうであった様に、もともとお酒を飲んだのはみんなの仲間に入りたかったからで、仲間にはいって上手くやっていくには飲まなければならないと思っていたのだそうです。

では、上手くやっていたのか、みんなの仲間に入れたのか？

彼は言いました。「いつも一緒に飲む仲間はいたけど、大事な話はずっと自分の中に留めておいたな。」「酒を飲みながら話しは聞こえているし、いつも手の届くところに人はいるんだよ、でもね先生、

自分の大事な話はしないよ。だからいつもひとりぼっちだったよ」と。

私は彼に「AA ではね自由に隠し立てのない話をしていいのよ。AA は集って、お互いの体験や意見を出し合ってそれをきく。言いつばなしの聞きつばなし、っていうの。議論も説得もないのよ。あなたが安心できる場所よ。仕事が終わって日が暮れて、お酒でも飲むか、そうして時間を過ごすか、、、ってときに AA のミーティングってあるのよ。暇だと飲みたくなるんじゃない？」と伝えました。

AA では時間をすごすことができます。AA に居る「この時・その時」飲まないで過ごすことができます。

AA では独りを、孤独を逃れて、お酒の代わりに「自分の物語」を話すという「感情の癒し」を見つけることができます。

AA は「社会」です。アルコールに関連した問題が原因で失職や離婚をして人間関係が崩壊してしまった人がもう一度「対人関係」を取り戻すことができます。アルコール依存症という病気を知らない人といきなり交流するのではなく AA のミーティングで同じ悩みを持った人と安定した対人関係を取り戻して、仕事等を通じて拡大して行くことが社会復帰の目安になります。

AA に足を運んで、同じ悩みを聞き続ける事で自分を映し出す鏡としての再発見と再確認に繋がるすることができます。

AA の回復のプログラムの 12 では自分のアルコールのメッセージをアルコールリックに伝えるとあります。

これはとても大切です。

「保護対象者」はずっと指導を受けてきました。自分にアルコールの問題があることをずっと「教えられて」きました。

AA のステップ 1 2 によって「伝える事」で教えられる側にいた時は本当に理解できなかった事が人に教えてやっと、ふかく理解できるようになるのです。

誰かに物事を教えるとき、人に上手く教えられない時や、伝わらない時は、自分自身がわかっていない事が多々あります。

教えられる側から伝える側へ、援助される側から援助する側へ、これはアルコールの問題の正確な理解を深め、自分自身を見直す作業に繋がります。人を助ける事で自分が助けられます。

一人で歩く道は暗く寂しいものです。

保護司の先生たちの前に、独り、暗く、長い断酒の道を歩き始め

た保護観察対象者が現れたら AA を紹介してあげてください。

「自分を変えなくてはいけない」そのことに恐れている人が現れたら AA を教えてあげてください。

AA には「繋がり」があることを教えてあげてください。